

---

---

# 「授業を英語で行うことができる」実習生を育成するために：模擬授業の事前・事後指導

---

---

関 典明

---

---

## 1 はじめに

学生の英語力の育成だけ、逆に授業内で活用すると思われる指導技術の習得だけに時間をかけても授業を英語で行うことができるものではない。英語力と指導技術の両方をバランスよく備え、自分の授業設計と自己点検ができる人材育成を見据えた英語科教育法が求められると思う。さもないと、教育実習を終え、また教員採用試験に合格をしても、それ以降、学校現場で英語教師として職務を全うすることが著しく困難であろう。

英語実習生として教育実習期間中の教壇実習があまりにも思うようにできなければ、それまで抱いていた教員志望の夢を失くしてしまう可能性がある。教育実習はキャリア形成の「通過点」とはいえ、個々の学生に入念な事前準備を行なわせることで実習生として大きな失敗を防ぐことは十分可能であり、控えめに言えば実習校にも迷惑をかけず実習生を送り出す大学の信頼を失墜させることもないだろう。

標題の前半に関わる全てについて授業内でいかなる指導をこれまで行ってきたかを詳述すると与えられた誌面には収まらない。本稿では、今年度の3年生を対象とした「英語科教育法A」の授業で2017年11月17日、24日、12月1日、8日の4回にわたって受講学生12名が行った模擬授業に特に焦点を当てその事前に・模擬授業当日に・事後に具体的にどのような指導が計画、実施され、学生は、模擬授業・事前・事後を通して「何を学び」いかに「成長した」かを整理して紹介したい。

## 2 模擬授業に至るまでの授業で直接模擬授業に関連する基本事項

大きく分ければ、以下の4点に集約される。

- ① 前期の授業での Critical thinking と主な教授法の概要紹介
- ② 夏休み期間中の課題として1分間スピーチ練習
- ③ 後期前半の②の授業内でのスピーチ発表と相互評価
- ④ 模擬授業で活用する指導技術の紹介

① では、戦後の学習指導要領の中の中高の「外国語（英語）」の目標の変遷とその時代の社会的背景について調べさせて、英語がそれぞれどのような社会的背景・要請から小学校から高校卒業時まで各校で指導されようとしているかを教えた。同時にこれからの新学習指導要領ではアクティブ・ラーニングによる指導

が学校現場で求められていることを紹介しつつ、本授業にもその要素が多く含まれていることに気づかせた。ここで特に苦心した事は、授業への参加意識を「学生」として受動的に出席しているのではなく、将来教師として「自分で授業をデザインしていく立場」になることを意識化させることであった。一つの物事を異なる立場を想定して徹底的に考える訓練を、荏谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社＋α文庫）の例題の新聞記事と解説（同書 pp.99-109）を手始めにして、最近の教育関連の新聞記事を授業で何度か取り上げ第一読での見解が異なる学生同士でペア・グループを作り相互になぜそう思うのか理由を論じる、論点の相違を整理・発表させることを前期を通して繰り返し行った。学生諸君にとっては非常に新鮮な訓練であったこと、またその後大きな影響を与えたことが、2017年12月22日「授業振り返りシート」の複数の学生の記述から読み取ることができる。

- ・他の授業でも発表を評価したり討議をする時に自分の考えを出せずに困っていましたがこの授業でクリティカルに考えることを徹底されたので少し身についてきた感じがします。
- ・物事を判断する時に、表面的に捉えるのではなくクリティカルに捉えることができるようになってきた実感がします。
- ・社会の事象を見る時にクリティカルに考えることを学び、広告一つをとっても前よりそのまま信用しなくなりました。
- ・この授業を受けて自分の中で変わったと感じるのは、授業の中だけではなく、生活の中でも色々な事を何も考えずに自分の中に吸収するのではなく、なぜそうなのか中身に対して考えるようになったと思う。自分がすることでもなぜこれをやっているのかということをも自分で少しは考えられるようになったのではないかと思います。英語に限らず Critical Thinking は自分の為になったと思いました。

英語で授業を運営していくためには所謂「教室英語」の活用は必須である。この点については、書籍の購入までは強く勧めなかったが、研究社のホームページから『教室英語ハンドブック』の例文の英語音声が無料でダウンロードできる（MP3 データ）ことを紹介し、一部音声を授業で聞かせることをしたが、結果的にはあまり実行・活用されなかったようで残念であった。

英語指導法の理論と実践の根底として、受講学生には、書名は紹介していないが杉田由仁『「英語で英語を教える」授業ハンドブック』（南雲堂）を据え、授業の展開例として今日でもオーラル・メソッドの名授業として語り継がれている長勝彦の1984年2月江東区立第三亀戸中学校1年校の公開授業（『雪の日の授業をあなたに』浜島書店）の現在進行形のオーラル・イントロダクションのDVDを視聴させ内容について気づいたことなどを挙げさせ詳細な解説を行った。オーラル・メソッドは1922年にイギリスから文部省顧問として招聘された H.E. Palmer によって当時の日本の英語教育に大きな影響を与え、改善を重ねて今日まで引き継がれているが、その招聘にあたり大きな力となったのは成城学園の創立者である澤柳政太郎であり、成城大学で英語教授法について教える授業で最初に取り上げ学ばせる指導法としてふさわしいと思ったのである。次に取り上げたのは、オーラル・アプローチであった。これも、講義から入らず、前出の授業の pattern practice の手法との相違点に気づかせることを目的として、山家保の1974年11月仙台市高砂中学校2年の公開授業の録音CD（『あえて問う英語教育の原点とは』開拓社）を聞かせ、聞き取り再現作業を行った。加えて、**【資料1】** 拙稿「オーラル・アプローチをもう一度」（『英語教育』（大修館書店）2003年4月号 pp.18-20 より）を配付、紹介している指導技術を授業で学生を生徒役にして実演した。また、オーラル・アプローチの言語学的、心理学的背景を解説し、その教授法が時代の変遷と共にいかに批判されて影響力を

失ったかも同時に解説した。教授法として最後に紹介したのは、今日の教授法としてコミュニケーション・アプローチの考えによる【資料2】の約5分間の活動（「サッカー・ゲーム」）を学生を生徒役にして実演し、その活動のルールなどを振り返りながら、授業で行う言語活動のあり方について質問を投げかけて議論を深めた。

② 夏休み期間中の課題として後期の授業で1分間スピーチの活動を行うことを宣言。その準備・練習を行うことを指示した。③の授業概略は以下の通りであった。

スピーチのテーマは、浦島久・C. ダブネポート共著『1分間英語で自分のことを話してみる』（KADOKAWA）の指定トピック計30テーマについてスピーチ原稿を用意させて授業では、スピーチの順番は事前に決めて知らせておくが、スピーチのテーマは直前に籤で知ることになる。Moderatorは、籤を引きスピーチのトピックとスピーカーを紹介し、スピーチ後、質疑応答を行うが質問がすぐに出ない場合は、Moderatorが必ず質問を率先して行い、約2分間の質問時間が経過したらスピーカーに短い謝辞を述べ締めくくるというものであった。スピーカー以外の者は【資料3】のスピーチ評価票が予め渡されており、その場で評価を行う。スピーチと質疑応答は全てDVD録画し、翌週スピーチと質疑DVDを2回全員で視聴し、最初の評価と「差」がいかに生じるかを体験し、最後にコメントを記してスピーカーごとに集約し渡すという流れであった。

結果としては、1回目のスピーチ直後とDVD視聴後とは予想通り、スピーチ直後の評価では、視線や発音などについてDVD視聴後に比べて明らかな見落としや発音の誤り、英語の大きな間違いなどについて聞き落としが多いことに気づきがあり、2回目のスピーチ後の評価の平均点は、1回目のDVD視聴後の平均点とほぼ同じであり評価の妥当性・信頼性についてもこのプロジェクトを通して実地体験をしてもらった。またコメント内容も率直で、相互にそれを受け入れ合う様子が見て取ることができた。

④ 模擬授業の中で、最も活用されるべき指導技術として「音読」と「新出単語の発音練習」をフラッシュカードで行うという2つを取り上げた。前者は、DVD『「音読」で身につく英語力～指導の目的に合わせた音読指導のバリエーション30～』（ジャパンライム）により授業場面を視聴させて、指導手順を記録させた。その準備として【資料4】を事前配付して「音読」される教材を予習させた。またDVD視聴時には【資料5】を配付し、メモを取りやすいように途中で止め、手順の理解ができにくいものは繰り返して視聴させ手順の記録を取らせた。後者は、『英語授業ハンドブック [中学校編]』付属DVD Ch.7 語句の提示（大修館書店）を視聴させ同様に手順を記録させた。模擬授業前に授業時間の余裕がなかったため、これらDVD視聴時の記録に基づき指導手順を忠実に再現・実演させることは断念した。

### 3 模擬授業の実施要項と実際

【資料6】の要綱を全員に配付し、同時に各パート3名の割り振りを、日頃座席が近くない人をグループにすることを事前に宣言し、公開抽選を行い決定した。また教科書の該当部分のコピーも配付したが、音声については今年度大学で購入したデジタル教科書に各自アクセスして利用するようにさせた。これがこの教科書教材を利用する理由の一つであり、仮にこの教科書が実習校で採択されている場合は6月に実習する場合はこのあたりが標準的な年間指導計画では担当する可能性があることを告げた。また各模擬授業終了時には、【資料7】の生徒役をしていた者に相互評価を書かせ、授業担当者にまとめて渡した。以下、授業を含

めてその流れを記す。

- ①授業担当者が略案をメールで添付して前日までに提出する。
- ②提出された略案に私が改訂すべき点を幾つかメールで指摘し再提出させる。
- ③再提出された略案を全員分印刷して模擬授業時に配布する。
- ④模擬授業は iPad を用いて DVD 録画される。
- ⑤模擬授業後、授業担当者は合評の冒頭で自評を口頭で短く述べ後で用紙に書く。
- ⑥生徒役の学生から気づいた点をコメントしたり、質疑応答をする。さらに用紙に書く。
- ⑦私から特に大事な点に絞り簡潔に口頭でコメントをする。
- ⑧次週の授業前に前週の略案に授業時に既に指摘された点を除き、授業時、DVD を見て気づいた事を余白に私が手書きで加筆したものを授業者だけでなく全員に配付する。
- ⑨授業者は、USB を持参し、④の自分の模擬授業の録画 DVD をコピーして受け取る。

## 4 模擬授業を通しての学び

以下、それぞれの学生の氏名は本稿では伏せて、改訂前の略案、私のコメント、改訂された略案、と前述の学びがどのように進化したかを見ていきたい。学生達に繰り返し言ったことは、「前の人と同じ失敗をしない。」「準備は念入りに！」「振り返りはしっかりとする」の3点である。

### 第1回目の模擬授業

#### 【A 君の最初の略案】

##### 【導入】

1. 中学時代の職業体験に関して質問（数人）  
…新出単語を踏まえて自分の体験
2. Unit3 の目標確認

##### 【新出単語】 ※単語カード使用

1. 新出単語 career ~ with a smile（各2回ずつ一通り）  
…発音チェック含む
2. 新出単語の確認 career ~ with a smile  
（各2回、2,3人に指名、全員1回）
3. 要注意発音の確認  
right, rice, light, left（数人指名、二人ペアで確認）

（注）以下の評は多く書かれていたが、本稿はそのうち主要なもののみ掲載した。

##### 【指導案提出時の私からの評】

- ・略案にしても、最低限授業で使う英語の指示文ぐらいは書きなさい。
- ・それぞれの活動時間の目安を立て計画しなさい。また事前練習をしっかりと行うこと。



【改訂され再提出された A 君の略案】

【導入】

1. 中学時代の職業体験に関して質問（数人）  
…新出単語を踏まえて自分の体験  
All, right. Let's get started.  
Did you do career experience in junior high school?  
→ What jobs did you experienced? How did you do?  
I did in a kindergarten. It was so good experience for me.  
Then, I learned two important points.
  - Wash your hands.
  - Keep a smile.
2. Unit3 の目標確認 ※読み上げる

OK. Let's start New Words.

【新出単語】 ※単語カード使用

3. 新出単語 career ~ with a smile（各 2 回ずつ一通り）  
…つかえた単語は発音チェック  
Look at this cards, and repeat after me.
4. 新出単語の確認 career ~ with a smile  
（各 2 回→ 2,3 人に指名→全員 1 回）  
…細かい発音、アクセントにもチェック
5. 要注意発音の確認 ※解説なので日本語使用  
[l] と [r] に要注意 ※図解あり  
[l] しっかりと上の前歯の付け根に当てて発声  
[r] 舌は口の中のどこにも触れず「ラー」と発声  
right, rice, light, left（数人指名→二人ペアで確認）  
…フラッシュカードで [l] [r] の発音に慣れさせる
6. 単語カードをすべてシャッフルして確認  
⇒確認次第、本文へ

【授業後の A 君自評】

- ・生徒から思うような反応が得られず、動揺した。結果的に導入がうまくいかなかった。

【生徒役の子からの評】

- ・難しい発音について口形図を用意したり工夫をしていた。
- ・新出単語カードの見せ方で最初は後ろの人には見えなかった。

【授業直後の私の評】

- ・生徒から何かを引き出す（ elicit ）することは重要。ただし、模擬授業の中で「教員～生徒」との役が

できていない。トップバッターでそこは大変だったと思うが。

生徒から、何を引き出せるか、仮にうまくいかない場合はどう対処するかを事前によく考えておくこと。

- ・単語カードは、完成まで「あと一步」という感じ。丁寧に制作をすること。

#### 【略案に加筆した私の評】

- ・英語の基本的な誤りは、注意してすぐに訂正する。特に書いた英語、英文をよく見直すこと。
- ・発音の仕方を解説した後、生徒にすぐに真似させ、ここでの新出単語のカードを利用して練習を行うべき。それがすぐにできるためにカードに取り出しやすく目印をつけるなど工夫すると良い。

#### 【Bさんの最初の略案】

##### 1. 本文音読 (5min)

- ①教科書の音声を流す—デジタル教科書を使って2回
- ②本文をかたまりごとに読む—2回
- ③本文をピリオドごとに読む—2回

##### 2. 新出文法の説明 (10min)

- ①新しい表現の説明—to と動詞の原形で不定詞の副詞的用法
- ②教科書 33 ページの基本練習—生徒 3 人指名

文章を完成させ和訳

#### 【指導案提出時の私からの評】

- ・略案にしても、最低限授業で使う英語の指示文ぐらいは書きなさい。
- ・それぞれの活動にどのぐらいの時間を要するか目安を立て計画しなさい。また提示する英文や説明の重点など明らかにすること。

#### 【改訂されて再提出された B さんの略案】

##### 1. 本文音読 (6min)

- ①教科書の音声を流す—デジタル教科書を使って2回

Open your textbook, page32. Listen carefully. Are you ready?

- ②本文をかたまりごとに読む—2回

教師が一度かたまりごとに音読しスラッシュを指示する

Let's read out loud the textbook chunk by chunk. Repeat after me.

- ③本文をピリオドごとに読む—2回

Next, let's read out loud the text sentence by sentence. Repeat after me.

##### 2. 新出文法の説明 (9min)

- ①新しい表現の説明

板書：To 動詞の原形 「～するために」 不定詞の副詞的用法

説明：教科書では to welcome で歓迎するためにとなり、

私は彼ら（お客様）を歓迎するためにあいさつをする

②教科書 33 ページの基本練習—生徒計 6 人指名

生徒 1 人を指名し、To を入れて音読 生徒に続けてクラス全体で音読  
別の生徒を指名し、日本語訳させる × 3 問

【授業後の B さん自評】

- ・スピーチの時も緊張したがとにかく今回も前に出て緊張した。

【生徒役 of 学生からの評】

- ・授業後半は緊張がほぐれて笑顔があった。
- ・日本語が多かった印象。

【授業直後私の評】

- ・指導案を書き上げてから本番まで時間があまりなかったので今回は緊張が顔を出したと思う。  
案の書上げを早めに行い、それから練習をし案の修正を。時間の余裕を作ると良い。

【略案に加筆した私の評】

- ・一つの活動が終了する時点での到達目標を自分で明確にする。さもないと、指導がブレる。
- ・長い説明の言葉より生徒が理解しやすい易しい例文を見つけるように努力する。
- ・活動の間に不要な「間」があり授業を重くし、快適なテンポで進まなかった。

【C 君の最初の略案】

1. 本文 reading 7 分

英語を使って生徒に個人読みをすることを伝える。

まずは立ち上がり、終わったら座るように指示する。

一回目の音読は回数指定、一斉読みをする。四回本文を読むが一回読んだら右を向き、二回読んだら後ろを向き、三回目は左、四回目で正面を向くように指示し、生徒の進みがわかるようにする。

二回目の音読は時間指定、一斉読みをする。立ち上がり、終わったら座るように指示をする。時間を三分とする。自分が教室を回るので、質問があれば聞くように生徒に言う。

2. 練習問題の listening 4 分

問題文を日本語で読む。そのあとにデジタル教科書で本文を二回流すので答えを選択するように生徒に言う。二回流したら、答えを選べたか聞き、生徒に答えを聞く。聞いた英文を口頭で日本語訳して説明する。答えとなる Jhon の to watch a baseball game on TV の一文だけは黒板に書き不定詞の箇所を確認する。最後にもう一度英語を流す。

3. 練習問題の Writing 3 分

問題文を日本語で読む。例文は読み合せて不定詞の使われている箇所がどこか確認する。その後実際に生徒に①～③のどれかを選ばせて、作文をさせる。生徒の周りを歩いて進捗を確認する

【指導案提出時の私からの評】

- ・略案にしても、最低限授業で使う英語の指示文ぐらいは書きなさい。

【改訂されて再提出された C 君の略案】

1. 本文 reading 8 分

{ 個人読みの説明文 }

now let's read textbook by yourself. Please stand up. Hold your text book and you read textbook four times. You read sentences like this. Please listen carefully. ( 本文を自分で読む ) First you read textbook and when you finish reading you turn right and you start reading. And finish reading, you turn right again. You do this three times. When you finish reading please sit down.

英語を使って生徒に個人読みをすることを伝える。

まずは立ち上がり、終わったら座るように指示する。

一回目の音読は回数指定、一斉読みをする。三回本文を読むが一回読んだら右を向き、二回読んだら後ろを向き、生徒の進みがわかるようにする。

{ 時間指定、一斉読みの説明文 }

Stand up again. You read text book by yourself. You have three minutes. When I say start you start reading. When timer rings you stop reading. If you have any question please ask me. Let's start.

二回目の音読は時間指定、一斉読みをする。立ち上がるように指示をする。時間を三分とする。自分が教室を回るので、質問があれば聞くように生徒に言う。

{ クラス全体→個人使命→クラス全体の説明文 }

Next, you read textbook when I say repeat after me. And if you are pointed by me. You read textbook by yourself. First I read textbook.

三回目の音読はクラス全体から数人を指名して読み、またクラス全体で読む。

指名は二人とする。

2. 練習問題の listening 4 分

問題文を日本語で読む。そのあとにデジタル教科書で本文を二回流すので答えを選択するように生徒に言う。二回流したら、答えを選べたか聞き、生徒に答えを聞く。聞いた英文を口頭で日本語訳して説明する。答えとなる Jhon の to watch a baseball game on TV の一文だけは黒板に書き不定詞の個所を確認する。最後にもう一度英語を流す。

3. 練習問題の Writing 3 分

問題文を日本語で読む。例文は読み合せて不定詞の使われている箇所がどこか確認する。その後実際に生徒に①～③のどれかを選ばせて、作文をさせる。生徒の周りを歩いて進捗を確認する。

### 【授業後の C 君自評】

- ・ 2 回目の音読をするための指定時間が長すぎた。
- ・ 英語で説明をして伝えるのは難しいと感じた。

### 【生徒役 of 学生からの評】

- ・ DVD でやっていた音読練習法を取り入れたのが良かった。
- ・ 教壇にいただけでなく生徒の方にもっと行くとよかった。

### 【授業直後の私の評】

- ・ 初めての活動をさせる時には説明だけでなく、例（実演）を示すのが良い。
- ・ DVD での時間指定の読ませ方は、模範音読と同じ時間内で読みきるための設定で今回とは違っていた。

### 【略案に加筆した私の評】

- ・ DVD の音読指導を取り入れてやろうとしているのは理解できるが、元の方法の目的を十分に理解・把握できていないまま真似ているのはダメ。
- ・ ある目的を達成するために複数の方法を考え出して一番良いと思うものを選択する。時間がかかってもそれが自分の指導の「引き出し」を増やすことになる。

## 第 2 回目の模擬授業

\* 1 回目の模擬授業で提示された略案が 2 回目以降の略案の水準としてほぼ定着した。

### 【D 君の略案】

< 対象—中学生 >

【復習】 -1minute-

Close your text book.

Q : (Do you remember the topic?) A : (Career Day)

Q : (What did you learn about last week in this class?)

A : (New words, New grammar) [to 不定詞]

【先週の単語】 ※フラッシュカード使用 -4minutes-

1. 発音の注意点の確認

Q : (What did you watch out? What did you say carefully?)

A : [l] と [r] の発音

[l] しっかりと上の前歯の付け根に舌を当てて発音

[r] 舌は口の中のどこにも触れず「ラー」と発音

2. 先週の単語 Career から with a smile まで発音 (2 回ずつ) …つかえる、または発音が違う場合再度発音チェック

(Look at this card, and repeat after me, and answer these meanings)

【教科書の音読】 -2minutes-

1. Open your text book page 32.

Let's read out loud the text chunk by chunk. Repeat after me.

2. Next, let's read out loud the text sentence by sentence. Repeat after me.



【前の文法についての言及】 -1minute-

What did you learn about grammar?

To 不定詞—「—するために」

【新出単語】 -7minute- (open your text book page34)

1. Chef から could not まで (2 回ずつ一通り)
2. [h] [f] の発音の注意 (Whole, fall/who, food)
3. 意味を言わせていく 1 回ずつ
4. 発音 (クラス→一人の生徒に発問させる→一人の生徒に意味の確認→クラス) を一通り行う  
⇒本文へ

【指導案提出時の私からの評】

- ・ 1 つの活動の始まりから終わりにかけて学習者にどのような「変化」が生まれるかをよく考えてみてください。

【授業後の D 君自評】

- ・ 模擬授業前に自分と同じグループの 2 人に協力してもらい指導案通りにやってみたおかげでスピーチの時よりよくできた。

【生徒役 of 学生からの評】

- ・ 単語カードは、もっとしっかりしたものを作るのが良かった。
- ・ 単語カードの文字はもっと大きく、太くしないと後ろの生徒には見えない。

【授業直後の私の評】

- ・ 単語カードというより「紙」。指で文字が隠れて見えない、自分でも使いにくかったのではないかな。後でその場面を DVD で見直すこと。
- ・ まだ視線が生徒よりも机の上の指導案にいつている。ここを改善する。

【略案に加筆した私の評】

- ・ 生徒が "Career" と答えたのを受けて "Career Day" と言い直すのは recast という手法。生徒の発言を否定せずに上手に先に進めていくためにぜひ覚え取り入れると良い。
- ・ 指導案を考える時に、なぜそうしようと思うのかと、その場の反応で思い通りにいかない場合を想定した別案を事前に考えておく。その場で考えるのは無理。
- ・ 現在は、大学生が生徒役だが、最初から「生徒はこれしかできないだろう」と決め付けすぎずに予想よりよくできたら英語で褒めることなどが生徒を盛り立てる。

【E 君の略案】

1. 導入 (2 分)

(1) デジタル教科書を使用して、本文の音声を 2 回流す。

Open your textbook, page34.

Today we listen twice. Are you ready?

2. 文法の説明 (5 分)

(1) 前回の副詞的用法に加え、もう一つ用法があることを明確にし、文法用語をなるべく使わないように

名詞的用法の説明をする。その後、want to ～. の説明をする。この後和訳をするので、本文の中に新出の want to ～. が3回、その他の名詞的用法が1回登場することを先に言うておく。

### 3. 本文和訳 (4分)

(1)最初に本文に／を入れてもらう。教師が音読する際に間を開けているところに／を入れてもらう。

(2)指名して／に即して音読をさせ、和訳を言うてもらう。

### 4. 音読 (4分)

(1)本文の意味を理解したうえで、最初は音読を／毎に行う。

(2)次に1文ごとに音読を行う。

いずれも、教師の後に続く形式で、生徒に復唱してもらう。

### 【指導案提出時の私の評】

- ・今回のグループでフラッシュカード（単語カード）作成担当は誰になりますか？

仮に音読練習途中で、ある特定の単語の発音に問題がある場合は、単語カードを利用して練習をすることが指導案に含まれていますか？模擬授業担当者間で相互の連絡をよく取り、あたかも「一人で全範囲を担当しているかのように」連携して授業を進めてもらえればと思っています。

### 【授業後のE君自評】

- ・デジタル教科書が本番で使えないことは想定外で、授業を進めるのがやっとだった。
- ・音読の前に、意味を理解させるという前提を十分守れなかったが、グループで相談して準備したのは楽しかった。

### 【生徒役の学生からの評】

- ・機械の故障が気の毒だった。その割には頑張っていたのが見えた。

### 【授業直後の私の評】

- ・デジタル教科書が思っていたように使えないと判断してからの「切り替えた」態度が良かった。いつまでも引きずらないことが大事。
- ・同じ場面・活動では、生徒が慣れれば指示を細かく言わなくても動くことができるようになるもの。指示をどうするかその見極めも大事。

### 【略案に加筆した私の評】

- ・幾つか発音で、生徒に注意しなくてはいけないレベルで自分の躓きがあった。
- ・生徒が上手に音読できていない場合があった。そこですぐに Backward-build-up の指導技術を活用する対応が必要であった。
- ・生徒に和訳をさせる目的、また生徒がつかえてしまった時の対応、必要な最大の時間なども事前によく考えておく必要がある。

### 【F君の略案】

#### 1. 本文 Reading 約4分

#### 〈個人読みの説明文〉

Now, let's read the textbook by yourself. Please stand up, and hold your book. We set the time to

read, which is 30 seconds. You read the text two time, so please read properly and loudly. Are you ready? Please begin! ( …30 seconds) Alright. Did you read well? Next is second time. When you finish reading the text, please sit down. Are you ready? Okay let's begin.

- ・英語で個人読みをすることを伝える。
- ・二回、余裕のある時間制限を設けて読ませることで丁寧に発音することを狙う。

## 2. 基本練習 約4分

First, I read the example, after that please repeat. Okay?

“I want to be a chef. Everybody!” “ (repeat) ” x2

Good. Like this sentence, let's read from 1 to 3 with the voice. First, you read with me, and second time, please read by yourself.

( read 1 to 3 ) .

Good. Next, please think about this picture. ( show the picture.)

Please say loudly! … Good!

- ・基本練習の例) I want to be a chef. の文章を私が読み、そのあとに繰り返すよう伝える。
- ・次に 1-3 に関して、一回目は私と一緒に発音し、二回目は生徒だけで言わせることを伝える。

## 3. speaking part

- ・ペアになってもらい、教科書に書いてある通りお互いの将来就きたい職業について会話をしてもらい、何組かを指名して発表してもらう。
- ・その際、質問者は教科書に書いてある例を参考にするよう促す。

## 4. writing part

- ・お互いに聞き合ったことを、主語をパートナーに変え、何名か指名して発表してもらう。

### 【指導案提出時の私からの評】

- ・教科書の練習問題を行う場合、どのように指示し、例を出し、それに十分慣れさせておいてから始めるかがポイント。さもないと、全く異なる練習が始まったり、思うような成果を得ることができません。

### 【授業後のF君自評】

- ・実際に授業をすることと指導案で考えていたこととは大きく違っていたが、時間内で終えることができたのは良かった。

### 【生徒役の学生からの評】

- ・落ち着いて教壇に立って指示出しができていた。

### 【授業直後の私の評】

- ・授業で3人称を出す時に、自分を登場させるのは生徒からその例文が理解されやすいかを考える必要がある。別の例の方がよい。

### 【略案に加筆した私の評】

- ・One thing at a time.+ small steps の原則で提示・練習課題を見直すと学習者に「無理のない」活動を計画、指導できる。

### 第3回目の模擬授業

\* 第3回の担当者のG君は、模擬授業実施日よりも相当早く指導案を提出してくれた。そのため私からコメントをして一部改訂をしてもらっても当日まで余裕があると思いさらにコメントをすることにした。

#### 【G君の最初の略案】

##### ● 導入と語句の復習 3分

スーパーマンの話題から始め、journalistという今回のトピックを紹介する。その際に前回習った語句をいくつか使用し復習を図る。単語を提示し、生徒を指名して意味を問う。(パワポ使用)

Did you watched *Man of Steel*? What is Superman's job? Chef? No. He looks tired. What does he do? He makes a newspaper. He writes a whole (生徒の発音に注意) sentences. He works in a newspaper company. His job is a journalist. Today's topic is the journalist. Open your textbook to 36. Alex hears about jobs of journalists.

##### ● 不定詞の名詞的用法の復習 3分

まず日本語で「将来何になりたい」と生徒に指名して問う。答えを英語で板書し、発問する。

Say it with English. (ここから板書) I \_\_\_\_ be a ¥¥¥.

指名するのは前回の授業で将来スポーツ選手になりたいと言っていた子を優先して、Sounds..., couldn'tを使ったリアクションを行い、それを板書して復習を図る。

##### ● 新出単語意味確認 4分

a. 単語カードを用いて、生徒1人を指名して around~future の意味を1つずつ確認していく(生徒は宿題で予習済み)。needについては不定詞の名詞的用法と合わせた説明を行う。

By the way, (板書) I want to get muscle, so...私は運動する必要があります。I \_\_\_\_ do exercise. 生徒を指名してこの穴埋めをさせる。needもwantと同じような使い方ができると気付かせる。

b. take...outは板書し、目的語が人の場合と物の場合の2パターンの訳の違いを個人指名して考えさせる。時間があればtakeoutという名詞があることにも触れて理解を深める。

ハンバーガーショップに行くとき、テイクアウトの文字が→間違った使い方か→takeoutという名詞

##### ● 新出単語発音練習 5分

単語カードを用いてクラス全体での発音練習を行う。

2回全体発音→2人に指名→1回全体

ただし around は全体発音の後で、[l]と[r]の違いを個人指名して問い確認する。その後もう一度最初の全体発音からやり直す。

#### 【G君の最初の指導案提出時の私からの評】

- Did ... watched は× watch
- Superman's jobではなく、人間の姿のクラーク・ケントが「新聞記者」。スーパーマンは、正義と地球のために闘う人？それが主語で He makes a newspaper. は変！？
- 生徒から答えが引きだせることが確実ならば、What do you want to be? と英語で尋ねるのが自然。この疑問文は生徒が言わない前提。それ以降の答の文の変換練習は？

主語を変えるとかな？

- ・空所補充：I have to do exercise. も出てくるかもしれません。
- ・新出単語は、どの単語が発音上難しいのか、意味上難しいのか、などの予測と対応策を考えてください。

#### 【G 君の改訂された略案】

##### ● 導入と語句の復習 3分

スーパーマンの話題から始め、journalist という今回のトピックを紹介する。その際に前回習った語句を使用し復習を図る。単語を提示し、生徒を指名して意味を問う。(パワポ使用)

Do you know the Superman? He is Superman and his name on the earth is Clark Kent. He is tired. What is he doing? He is reading a newspaper. He is reading the whole (生徒の発音に注意) sentences. He works in a newspaper company. His job is a journalist. Today's topic is the journalist. Open your textbook to 36. Alex hears about jobs of journalists.

##### ● 不定詞の名詞的用法の復習 4分

まず What do you want to be in the future? と、生徒を1人指名して問う。うまく答えられないようなら質問文を板書。それでもだめなら35ページに戻るよう指示。その際、Sounds…を使ったりアクションを行い、それを板書して復習を図る。つぎに、want+ 不定詞を理解しているか確認するために、日本語で「1つ外国を訪れるとしたらどこがいいか。1分あげるのだから want と visit を使ってどこに行きたいか英文をノートに書いてください」と指示する。解答している間、巡回し生徒の英文を確認。1分後、うまく解答できていた2人を指名して答えを発表。その後不定詞の名詞的用法の意味を日本語で確認する。

##### ● 新出単語意味確認 5分

c. 単語カードを用いて、生徒1人を指名して around~future の意味を1つずつ確認していく(生徒は宿題で予習済み)。need については不定詞の名詞的用法と合わせた説明を行う。

By the way, (板書) I want to get muscle, so…私は運動する必要があります。I need \_\_\_\_ exercise.

生徒を指名してこの穴埋めをさせる。need も want と同じような使い方ができると気付かせる。office は事務所という意味で使われる事も多いと説明。interview は取材の他に面談するという意味もあることを説明する。everywhere は場所を表す副詞で、文中に置かれる場所に注意するよう説明。news は単数扱いであると説明。

d. take…out は板書し、目的語が人の場合と物の場合の2パターンの訳の違いを板書で説明。tell と told も原形と過去形だという関係を板書する。

##### ● 新出単語発音練習 3分

単語カードを用いてクラス全体での発音練習を行う。2回全体発音→2人に指名→1回全体

ただし around は全体発音の後で、[l] と [r] の違いを個人指名して問い確認する。その後もう一度最初の全体発音からやり直す。future の f の発音は下唇に前歯を軽く触れるようにしようと説明 news をニュースと発音していないか確認。



【改訂された G 君の指導案への私からの評】

直前アドバイスとして：

①冒頭：Close your textbook (s) . と指示をし、全員が指示に従っていることを見渡して確認してから、  
Do you know ... と始める。

② He is reading the whole sentences.

の単語 whole は発音としての注意も必要ですが、意味として英語で言い換えを例えば以下の流れで聞かせる。

1) He is reading the whole sentences.

2) He is reading the sentences from the beginning to the end.

3) He is reading the whole sentences.

4) the whole sentences 意味は？

5) 生徒の答えを確認し、カードで whole を見せて w を隠して発音を聞かせ、w が発音されていないことに「気づかせる」

6) そこで繰り返して数回言わせる。

②の手順をスムーズにこなすのと、説明を日本語で挟むのと時間がどれだけ違うか、生徒にとってどちらが有益かを考える。これが「授業準備」と「指導技術を学修する過程で必要なこと」です。 模擬授業 3 回目にしてここまで来ました。

【授業後の G 君自評】

・板書は、もっとよく考え練習をしておくべきだった。

【生徒役の学生からの評】

・落ち着いて授業を進めていた。よく準備しているのが伝わった。

【授業直後の私の評】

・口頭での提示と単語カードの示し方との不一致、単語の意味の説明はここで一気に集中してするのが良いのか、分散させる方が良いかなど検討課題。概して「教えすぎ」の傾向。

【略案に加筆した私の評】

- ・指名をする時には、まず Q を全体に出して全員で A を考える時間を与えてから指名する順。先に指名をして Q を出すと、指名された生徒以外は A を真剣に考えないことが多い。
- ・教科書以外の話題から導入し、それが「当たる」と教科書に戻すことに苦勞する場合もある。ここは匙加減が難しいところ。

## 【H さんの略案】

### 1. 新出文法説明（4分）

- ・副詞的用法（～するために）
- ・名詞的用法（～すること）
- ・形容詞的用法（～するための）

前回と前々回の二つに加えて最後に三つ目の用法があることを説明する。

### 2. 本文を聞く（3分）

①本文を二回聞かせ、不定詞がいくつ入ってるか聞き取らせる。

Open your textbook, page 34.

Now we listen to text twice. Then, I want you to listen carefully about 不定詞 .

After a listening to text I will ask question. How many to 不定詞 in this page.

②いくつ聞き取れたのか聞く

Close your text book. How many 不定詞 in this listening. Raise your hands.

### 3. 本文和訳（4分）

①教師が間隔をあけて読み、そこに本文に / を入れてもらう。

Ok, next I read chunk by chunk. Please write / .

②指名して / ごとに音読させて訳してもらう。

Then I will call your name. If you are called please read and translate one chunk.

### 4. 音読（4分）

①本文を全員で一文ずつ音読する。

Now let's read this page sentence by sentence. Repeat after me.

②本文を指名して音読してもらう。

Finally, I will call your name. If you are called please read one sentence.

## 【授業後の H さん自評】

- ・生徒役で授業を受けているのと教壇に立つことの「差」を知った。できると思っていたことができないことを知った。

## 【生徒役の学生からの評】

- ・英文を紙に書いて、板書の時間を節約したのは良かった。
- ・落ち着いてやっている様子だった。声が少し小さかった。

## 【授業直後の私の評】

- ・黒板に横長の紙を貼るのを一人でするのは大変。生徒に「英語で呼びかけて」「英語で指示をして」手伝ってもらい「英語で御礼を言う」のが良い。

## 【略案に加筆した私の評】

- ・「指名の原則」を守ること。
- ・生徒への指示の中身が十分に練られていない箇所があった。無駄に時間がかかっていた。

## 【Iさんの略案】

### 1. 個人読み（約6分）

初めに生徒自身で教科書を読んでもらう。

Let's read by yourself. Please stand up and hold your text book. I give you two minutes. So you read three time. If you finish to read, please set down. Are you ready? Let's begin.

次にもう一度クラス全体で音読をする。私が発音した後、個人指名をして指名者に読んでもらい、その後クラス全体で音読する。

### 2. 基本練習と Q&A（約6分）

〔基本練習〕

日本語で例文の説明をしてから1問目だけクラス全体で一緒に解く。その後2, 3問目を時間内（1分）に解いてもらう。

〔Q&A〕

初めは個人で考える。（30秒）次に周りの人と答えを相談、確認する。その後 Now I have one more question. Why did Mr. Suzuki take Kota and Alex out? といって問題を示し30秒間で考えて口頭で発表してもらう。この時、答えとなる to interview a soccer player. の to が最初に習った副詞的用法であることを復習、説明する。

## 【授業後のIさん自評】

- ・自分の説明を、生徒が理解してくれているのか不安があった。特に実際の生徒の場合は大学生ではなく中・高生なので。

## 【生徒役の学生からの評】

- ・授業を受ける生徒に対してとても丁寧な言葉遣いで指示をして優しい感じがした。

## 【授業直後の私の評】

- ・声が小さく指示が最後列まで届いていない。腹式呼吸を意識して教室で必要な声を出せるように。
- ・机間巡視をして生徒の学習の様子を細かく見ること。そこですぐに対応を行うため。

## 【略案に加筆した私の評】

- ・説明を先にして理解させてから活動を開始、これが鉄則。説明前に起立させては説明をしっかりと聞けない状態を作ってしまう。
- ・Q&A は、授業で紹介した方法を真似てやって欲しかった。

#### 第4回目の模擬授業

\* 早目の略案の提出があった人には、コメントをつけて返信して案の改訂を促した。

##### 【Jさんの最初の略案】

##### 1. 復習 (1分)

Q: What did you do last week in this class?

A: The topic was Career Day. Kota and Alex went to a newspaper company on Career Day. They saw Mr. Suzuki, a journalist, and told many things about the newspaper company. Today we will learn about Kota's interview.

生徒に頭の中で考えさせ、前回の授業でやったこと（トピックが何か、その内容はどんなものであったか）を教師が言い、生徒に思い出してもらう。そして今日授業で扱うトピックに少し触れる。

##### 2. 前回やった単語の復習 (5分)

フラッシュカードを用いて前回の単語を復習する。

まずは習った順番にカードを見せ、生徒を指名して意味の確認をする。一通りカードの意味を確認し終わったら、単語の発音練習を2回行う。（一単語発音したらカードを裏返して日本語訳を見せるようにする。また、1回目の発音練習より2回目を少し早くする。）時間に余裕があったら、カードを混ぜて順番をバラバラにして発音練習をする。

##### 3. 新出単語意味確認 (5分)

フラッシュカードを用いて新出単語の意味を確認する。

カードを用いて、生徒一人を指名して stadium~impress (ed) までの単語の意味を確認していく。（生徒には予習することを宿題にしている。）

教師は生徒が答えた意味+ここでの品詞も伝える。

ask...for~, get along with, all about この3つのイディオムの意味と使い方を例を用いて説明する。

##### 4. 新出単語発音練習 (4分)

フラッシュカードを用いて新出単語の発音練習を行う。

教科書に載っている順にカードをめくってクラス全体で発音練習を2回（一単語発音したらカードを裏返して日本語訳を見せる。）→生徒2, 3人に指名→最後にクラス全体で1回を一単語ずつ繰り返す。

最後にカードの順番をバラバラにしてクラス全体に発音させる。

##### 【最初の案に対して私の評】

・指導内容について、その重要さとそれにかける時間とのバランスをもう一度よく考えてください。

##### 1. 想定1分です。この時間内でどれだけ、どのように生徒から英語を引き出すか、生徒がすぐに英語・英文が出て来ないことを想定してどのようにヒントを出すか？

教師が、英文を言い、生徒が聞いているだけでそれで本当に大丈夫か？

復習の段階で、生徒に学習した事で何ができることを確認したいのか、その方法は？

それによって家庭学習の内容にも影響大。

##### 2. 現状、生徒は単語の意味と発音ができればOK～となっている。これで本当に良いか？

3. 生徒は、予習をしてきている前提でも、全員がやってきているか、の予測は？単語の練習は4. にも続くがどこまでできることを期待しているのか？4. に比べて3. は時間が長くないか？自分で通してカードを用いて予行練習しましたか？

上記コメントを読み、変更がなければこのままで略案を印刷します。

#### 【Jさんの再提出された略案】

##### 1. 復習 (2分)

Q: What did you do last week in this class? Do you remember?

Q: What was the topic?

A: Career Day

Q: What did you learn English grammar?

A: 不定詞 形容詞的用法

##### 2. 前回やったところの復習 (5分)

Teacher: Let's get warmed up. Last week we learned Unit3 Part 3. I will read the text and stop in the middle of the sentence. So please complete the sentence. Everyone look up.

ウォーミングアップとして前回やった教科書の文を読む。この時、生徒に不定詞のところを読ませ、前回やったところの大事な部分をおさらいし、教師と生徒が一緒に文を完成させる。

Teacher: Next let's try overlapping. 次は少し応用編をやってみましょう。教科書の本文を音声に合わせて読んでみましょう。同じスピードやリズムで読むことを意識してやってみてください。

復習の最後にオーバーラッピングを行う。デジタル教科書の音声に合わせて生徒に読んでもらう。もし上手く出来ない生徒がいたら、最初から上手く出来なくても家で練習できることを伝える。

##### 3. 新出単語意味確認 (4分)

フラッシュカードを用いて新出単語の意味を確認する。

カードを用いて、生徒一人を指名して stadium~impress (ed) までの単語の意味を確認していく。(生徒には予習することを宿題にしている。)

ask...for~, get along with, all about この3つのイディオムの意味と使い方を例を用いて簡単に説明する。

##### 4. 新出単語発音練習 (5分)

フラッシュカードを用いて新出単語の発音練習を行う。

教科書に載っている順にカードをめくってクラス全体で発音練習を2回(一単語発音したらカードを裏返して日本語訳を見せる。)→生徒2,3人に指名→最後にクラス全体で1回を一単語ずつ繰り返す。最後にカードの順番をバラバラにしてクラス全体に発音させる。



【授業後のJさん自評】

- ・授業の各活動の時間配分を考えて指導することが難しかった。

【生徒役の学生からの評】

- ・全体的にスムーズにまとまっていた。

【授業直後の私の評】

- ・復習の中身については更に、その指示・活動で生徒は何を習得しているかが確認できるかを突き詰めて考えて欲しい。
- ・授業は、個々の生徒に眼を配りながら進めていくことが基本。教科書本文を自分で暗唱して授業に臨むと余裕が生まれる。

【略案に加筆した私の評】

- ・生徒の反応に応じて適切な指示をタイミングを逃さず出すことが大事。事前の予測＋その場の観察と即断がポイント。対応の「遅れ」はその授業時間では取り返せないことがある。
- ・単語カードを用意したのだから、フラッシュさせて活用することが最後の模擬授業なのでできて欲しかった。

【Kさんの最初の略案】

1. 不定詞文法の総復習（5分）

今まで学習してきた本文を用い、不定詞の副詞的用法、名詞的用法、形容詞的用法を時系列順に復習する。

副詞的用法 I greet customers to welcome them.

名詞的用法 I want to be a chef.

形容詞的用法 I have many things to do.

2. 本文を聴く（3分）

Open your textbook to page 38.

① 本文を2回聞かせ、本文に含まれている不定詞を数えてもらう。

② 不定詞がいくつあったか尋ねる。

How many to不定詞 are there in this sentences?

3. 本文和訳（4分）

① 教師が間隔をあけて本文を読み、それに即して本文に/を入れてもらう。

② 順番に指名していき、/ごとに音読し、和訳をしてもらう。

4. 音読（3分）

① 本文を1文ずつ教師→classの順で音読する。

### 【最初の案に対して私の評】

まだ指導案提出締め切りまでは時間がありますから、以下の点について適度に加筆・修正したものを最終案として再送してください。

1. 総復習で取り上げる3つの用法があること、英文も分かりますが、それをどのような方法で提示しますか？手書きの板書？パワーポイント？自分でどれを選ぶか、そうする理由（長所・短所）もよく考えてください。

また、ここで生徒は復習としてここで何をするのか？先生の説明を聞く？ただ後について英文を繰り返し音読？そうすることがここで「用法」について復習できたと言える活動になるのでしょうか。5分間という時間の中身がこの書き方では全く見えません。

#### 2. 本文を聴く

ここでの目的が、不定詞の数を数えることで終わってそれがどう活かされるのか？

数はあっても、それだけで良いのか？

本文を1回通して聴くのに、どれだけの時間を要するのか計測していますか？

指示の英語、聞かせてその処理を含めて、時間内に収まる見通しがありますか？指示文は基本英語です。教室で使う英語を書き出しましょう。

#### 3. 本文和訳

生徒にここで和訳をさせ、皆が正しく時間内でできますか？ / を入れさせ、1回、2回目に生徒は音読が4. の練習なしでできるのですか？ 自分で本番を想定して音読を行い時間計測をしていますか？

#### 4. 音読

音読の始まりは①かもしれませんが、残りは時間があれば実施するというのは「計画されているとは言えません」その時間内で生徒が指導前に理解できなかったことが指導後には理解でき、できなかった事が指導後にできるようにする、これが授業です。

### 【Kさんの再提出された略案】

#### 1. 不定詞文法の総復習（3分）

- ① 今まで学習してきた本文を用い、不定詞の副詞的用法、名詞的用法、形容詞的用法を時系列順に復習する。

副詞的用法 I greet customers to welcome them.

名詞的用法 I want to be a chef.

形容詞的用法 I have many things to do.

- ② パワーポイントでそれぞれの例文を提示し、1文を和訳してもらう。

- ③ 副詞的用法「～するために」、名詞的用法「～すること」、形容詞的用法「～するための」という用法を確認。それぞれこういった働きをするものかを説明する。

※①、②の流れを、副詞的用法→名詞的用法→形容詞的用法の順に行う。

#### 2. 本文を聴く（4分）

- ④ 本文を1回聞かせ、本文に含まれている不定詞を数えてもらう。

Open your text book to page 38.

Now we listen to sounds of this sentences.

Please listen carefully to 不定詞 . After this activity I ask you how many to 不定詞 are there in this sentences.

- ⑤ 不定詞がいくつあったか尋ねる。

Close your text book. How many to 不定詞 are there in this sentences?

- ⑥ もう 1 度本文を聞きながら、to 不定詞の位置を確認。

3. 本文和訳 (5 分)

- ⑦ 教師が間隔をあけて本文を読み、それに即して本文に / を入れてもらう。

- ⑧ 生徒を指名し、/ ごとに教師が音読、それに続いて生徒にも音読させ、続けて和訳をさせる。

4. 音読 (3 分)

- ⑨ 本文を 1 文ずつ教師→ class の順で音読する。

- ⑩ 生徒を順番に指名し、1 文ずつ音読させる。

【授業後の K さん自評】

- ・指導の時間配分ができなかった。時間がかかりすぎて後の活動を圧迫した。

【生徒役 of 学生からの評】

- ・板書のかわりにパワーポイントで英文を提示できるように工夫していた。

【授業直後の私の評】

- ・生徒が日本語を言い、違っていたが “That’s right.” として流れてしまったり、生徒が正しい日本語を言った後、同じ日本語を先生が繰り返して言うことがパターンとなり、予定時間オーバーの原因になっていた。
- ・指導案から眼が離れず、生徒とのアイ・コンタクトがほとんどない。タイマーで時間経過を気にしなくてはいけないのにそこが見れていない。

【略案に加筆した私の評】

- ・指導案に各活動の時間＋開始時刻・終了時刻を書いておき途中での授業進行状況を正確に自分で把握できるようにしておく調整ができて良い。
- ・一つの活動から次の活動に移るまでに沈黙の時間がある。案に書いたことが頭に入っていないで教壇に立っているように見えてしまい生徒から頼りなく見える。

【L さんの略案】

1. 全員で音読

Ok, let’s make sure everyone can understand the textbook.

Repeat after me.

(個人読みを行う前に全員でもう一度音読する。わからない箇所の確認)

T の後に続くことで音声を耳に残したまま 2 の個人読みに移る。

2. 本文個人読み

Now let’s read the text book page 38. Please stand up and read the sentence 3 times by yourself.

When you finish, sit down and read it again quietly.

(音読のスピードには差があるが全員が3回読めるように終わった人も小さい声で音読を続ける)

Then, read it twice with your partner.

次に隣の席の人と一文ずつ交互に2回読みましょう。(机間巡視)

(英語での指示と日本語での指示の内容が多少異なるが、あくまで対象は中学生の為英語での指示は徹底せずあくまでも英語の指示になれることを目的とする)

★ここまでで質問はありますか？

### 3. 練習問題

Open your textbook again and look at the page 39. Now, let's start with questions.

Repeat after me.

① Did Kota Interview a sports journalist?

② What does kota want to do in the future? (曖昧な音読の場合2回)

Ok, I will give you 2mins so answer these two questions.

この二問を二分間で答えてみましょう。Ready.. start.

Stop writing and look at me.

Does anyone know the answer for Q1/Q2? Can you answer Q1 OOO?

(基本的には積極的に挙手してくれる生徒を待つが指名の場合もあり)

Thank you.

★質問やわからないところはありますか？

時間に余裕がある場合

・単語確認 / 小テスト・コラムのロサンゼルス (国紹介)

【案には単語確認小テスト&ロサンゼルス紹介パワーポイントも付属していたが単語テストで標題の英語に綴りの誤りがあった為下記を送信】

- ・スピーチと今回の模擬授業共に「トリ」ですね。指導案は、大事な「設計図」です。ぜひ、中身(授業内容)と形(誤字脱字などないよう)を美しく！見直し大事！

【授業後のLさん自評】

- ・授業の中でさらに扱いたい事があったが時間がなく断念した。そのような場合はどうしたら良いのか。
- ・適切な指示出しをすることが非常に大事だと実感した。

【生徒役の学生からの評】

- ・自作のパワーポイントを用意するなど中身が充実していた。

【授業直後の私の評】

- ・板書をしたらず、見直しをすぐにする。生徒に誤りを指摘されないように。仮に指摘されたら「感謝」してすぐに訂正すること。
  - ・何かプラス・アルファのことを授業に取り込む時には、そのPartの授業だけでなくUnit全体の「総指導予定時間」を計画することから始める。単なる思い付きで実施するのはダメ。必要な時間を割り出して、実行するために「無駄な時間」を排除していく姿勢が大事。
- 次の授業時に1時間の授業の細案の作成&Unitの指導計画を取り上げて解説した。

#### 【略案に加筆した私の評】

- ・生徒にとって新しい活動を行わせる場合、説明に加えて実演をするのが良い。混乱を未然に防げる。
- ・生徒が授業内の練習を経てなんらかの向上が見て（聞き）取れたら、それをその場で（英語で）褒めることが大事！
- ・どうしたら、生徒が円滑に活動に取り組み最後まで時間内で完了できるか、方法を吟味する。

## 4 模擬授業前後の「学び」の実態

模擬授業の事前指導及び事後指導の計8回の授業について各学生が各授業の難易度をどのように受け止めているかを表1. にまとめた。

表では、難易度を「普通」を0、「やや難しかった」を+1、「難しすぎた」を+2、「やや易しかった」を-1、「易しかった」を-2と表記を数字に置き換えた。また当該学生が模擬授業を担当した回は、枠内を塗りつぶしてある。

サンプル数は少ないがこの表によれば、自分が模擬授業を担当した回は12名中8名が「やや難しかった」以上を選択しており、「やや易しかった」を選んでいる者はいない。また模擬授業を担当した時は「難しすぎた」を選択しているが、事前・事後指導の回のほとんどは「やや易しかった」を選択している者（=B）やほぼ同様に模擬授業の時は「やや難しかった」を選択し、他はほぼ「普通」を選択している者（=I）がいる。客観的に見てそれぞれの模擬授業は成功したとは言えないレベルであり、特に事前授業で自分の模擬授業に必要な指導技術を学ぶ機会があったにも関わらず、そこでの「学び」を自分の尺度では理解・習得を「難しいもの」とは全く捉えてはいなかったことは興味深い。自分が模擬授業を担当し事後授業が「やや難しく」感じるようになった者（=H）とは好対照である。

表1. 授業内容と難易度の受け止め方の傾向

	事前1	事前2	模擬1	模擬2	模擬3	模擬4	事後1	事後2
	10.24	11.10	11.17	11.24	12.1	12.8	12.14	12.22
A	+1	+1	+2	+1	+2	+2	+1	欠
B	-1	-1	+2	-1	-1	-1	+2	-1
C	0	欠	0	0	0	0	0	0
D	+1	0	+1	+1	0	0	欠	0
E	欠	+1	0	0	0	0	0	0
F	欠	欠	0	+1	0	欠	欠	0



G	0	0	0	0	0	0	0	0
H	0	0	0	0	+ 1	+ 1	+ 1	0
I	0	0	0	0	+ 1	0	+ 1	0
J	0	0	0	+ 1	0	+ 1	+ 1	0
K	0	+ 1	+ 1	+ 1	0	0	0	欠
L	- 1	0	+ 1	+ 1	+ 1	+ 1	+ 1	+ 1

事前 1：音読の指導をめぐって：DVD 視聴と手順記録

事前 2：新出単語の導入とフラッシュカードの活用：DVD 視聴と手順記録

事後 1：高校の教材の口頭導入実演（私）と Unit 全体の学習指導案と細案の書き方解説

事後 2：J-POSTL：授業力自己評価項目リスト 100 項目への回答

表 2. J-POSTL：授業力自己評価項目リスト 100 項目への回答傾向

	1 の計	2 の計	3 の計	4 の計	5 の計	1, 2 の集中項目
A						
B	12	41	1	44	2	リスニング活動・学習目標設定
C	1	23	35	39	2	LESSONプラン使用
D	0	2	16	70	12	
E	12	36	23	23	6	スピーキング・リスニング活動・ 授業内容・LESSONプラン使用・ 生徒とのインタラクション・学 習者の自律
F	1	12	36	40	11	
G	2	18	23	55	2	
H	3	29	34	29	5	スピーキング・リスニング活動・ 教授資料の入手先
I	1	42	6	35	16	スピーキング・ライティング・ リスニング・リーディング活動・ LESSONプラン使用・生徒との インタラクション・学習者の自 律・宿題

J	13	41	20	24	2	スピーキング・リスニング活動・授業内容・生徒とのインタラクション・宿題・評価
K						
L	2	4	36	32	26	

(注) 1は「自信がない」～5は「自信がある」で各問いに対する自己の振り返り。

(注) 上記調査は2017年12月22日授業時間内で実施したため、本稿執筆時に当日欠席した2名からの回答を得ていないが後日調査を行い全数調査とする予定である。

表1. 及び表2. とを重ねて模擬授業の事前授業に対して、「難しい」とは回答していない学生は、事前授業のDVDで視聴した内容・説明をおそらく「自分自身が理解する」という尺度で難しさを感じなかったであり、自分が視聴したDVDの指導技術を正確に真似て教室で実演ができるか否かという視点の欠落、本授業での学びは知識を習得する「学生」ではなく「教壇に立つ身」に置き換えて実践的な指導力を学修していくことが目的であることを繰り返し強調してきたが該当学生には十分な自覚がなかったか、回答の1, 2の数と集中の様子から判断すると自分の4技能についてのレベル等とは、ほぼ切り離して考え、自分自身がその指導技術を使い教室で指導する姿が見えていないものと思われた。該当学生の授業時のコメント・感想を抜粋する。

#### <音読練習>

- ・チャンクという言葉は初めて聞きました。中学生の時にひたすら暗唱させられたがあまり意味を感じなかった。音読のやり方ごとに目的が異なることがわかりました。(B)
- ・中学、高校でよく音読はしていたが、教える側として気をつけないといけない点が多くあった。(H)
- ・音読の方法も様々で生徒の様子を見て判断しなければならないと気づかされた。(I)

#### <新出単語の導入・フラッシュカードの活用>

- ・フラッシュカードの角を落としたり、めくり方に工夫があることがわかった。がんばりたい。(B)
- ・DVDを見ると授業に入るまでに多くの準備と配慮が必要だと感じた。気をつけるべき点は細かくてよく注意しないと気がつかないと思う。(H)
- ・フラッシュカードを用いる時は、ただ単に使用するのではなく目的に応じて使い分ける事が重要だと思った。(I)

## 5 まとめ：本授業を通しての学生の変容

- ・3年生の最初の頃は、自分が中高で体験したことを基に教育実習を行えば良いと思っていました。(自分が学んできたことに自信があったので)しかし、必ずしも自分が学んできたことは正しいことではない、むしろ間違っていたということに気づきました。まだ苦手ですが、クリティカルに読み解く力を教育実習

までにつけたいと思います。

- ・毎回課題があって大変だったけれども、一緒に授業を受ける人とこれだけオープンに話せるようになったのは先生のおかげです。

1回の模擬授業に対して、自身のDVD画像を授業者に渡すという懇切丁寧な事を今年度行うことができたのは受講生が12名であったからである。ただし、実際に授業の画を受け取った学生が、自分の授業画像をクラスの人達を書いたコメント、私を書いたコメントを読み返しながら自宅などでどれだけ見直したかは定かではない。それも必須課題として、DVDの授業を視聴して自分で新たに気づいたことを書かせレポートとして提出させても良かったと今にして思う。

また、90分間の授業内で模擬授業を行うことができる人数は15分×3名が上限であった。授業直後のフィードバックの時間を十分に確保することを考えるならば、2時間連続の「特別時間割」を模擬授業の時には組んだ方が集中して議論もできたはずである。

また、指導技術の完全習得を目標とするためには文献だけによる学修では不十分である。映像を含めた「反転授業」を実施し、各自授業に臨んでもらいさらに授業後の復習も眼で見て確認・練習が容易にできるようにすることが指導技術の完全な習得につながるものと思う。これらは、次回担当する折の課題としてここに書き留めておくことにする。

(学校法人成城学園 参与／元成城学園中学校高等学校 教諭／本学非常勤講師)

## 【資料1】

### 実践・中学入門期の指導 ―オーラル・アプローチをもう一度―

関 典明

#### 指導手順の原則の背景

本稿では、「中学入門期」を「生徒が中学校での英語学習を学び始めて、英語の学習法あるいは指導法が、学習者、教師共に安定・確立するまでの期間」と捉えることにしたい。具体的には中学1年の2学期中頃までになるだろう。また、目新しい指導技術を紹介するというよりオーラル・アプローチという教授法の中で、その指導技術の存在は書物などで少しは知られていても、詳細な手順、留意点などが曖昧で、最近では活用されず埋もれているものをいくつか取り上げることにする。

それらは筆者自身が一番長く関わってきたものであり理論と実践が融合した、いわば中学校現場の「財産」と呼ぶべきものである。

#### Minimal Pair Practice

pin : pen のように音の最小対立を利用した発音練習のための指導技術である。この練習は、日本語にはない英語の音や、聞き分けにくい音の区別を指導する時に特に有効である。

①指導する minima pairs を 1,2 のように番号を付けた下に揃えて書く。

1. long
2. wrong
- glass
- grass
- thing
- sing (以下省略)

1,2 それぞれの単語を発音して聞かせ、その音の発音の仕方を解説し、再度聞かせ生徒に後について発音させる。

②教師が 1,2 の単語の一方を任意に発音して聞かせ、生徒は指を立ててどちらの音と認識したかを答えさせる。声を出さずに、指を自分の顔のところで出すようにすれば他人からの影響は少なくなる。

③教師が 1,2 の番号を指差し、その単語を発音させる。順番はいつも 1 → 2, 2 → 1 ではなく、2 → 1 → 1 → 2 など変化をつけて行う。

④教師が、1,2 の単語の一方を発音し生徒はその対になる語を発音する約束を確立しておく。最初はクラス全員、慣れれば個人を指名する。

⑤生徒を教師役にして上記②④の練習を行う。これはクラスの実情により実施するものである。

## Mim-mem

新教材の本格的な音読練習に入る前に意味内容を理解した上で行う、音声モデルをできるだけ正確に模倣して言わせ、暗記、記憶させる集中練習である。この練習を機械的・無味乾燥で退屈と生徒に感じさせてしまうか、次の段階の練習に入る準備練習として有効・有用なものと実感させるかは教師次第である。取り上げるのは、単音、二重母音から始まり、それらを含んだ単語、さらに文全体の発音練習まで徹底し短時間で手際良く行いたい。

①モデルをよく聞かせる。モデルは生徒にはっきりと聞き取れなければならないが、英語本来のリズムが失われるほどゆっくりな速度ではいけない。回数は、生徒が真似てつぶやき始めるぐらいを目安にしておく。

②コーラスでモデルの後について言わせる。必要に応じて発音上の注意（口の開き方、舌の位置、唇の形など）を事前・途中で簡潔に説明する。生徒に言わせる時は、個々の生徒の様子に目を配り耳を傾け、再度モデルをゆっくりと聞かせるなどの判断、練習回数の決定を行う。

③モデルの直後に 1 度だけ繰り返して言わせるのを single repetition という。それに対して同じものを連続して 2 回言わせるものを double repetition という。前者はモデルの音声が残っている間に真似て言うので比較的容易である。後者は自分で言ったものを聞いて、さらにもう一度言うので、1 度目に正確に大きな声で言えなければ 2 度目は不正確で、声も自信がないので小さなものになる。これは、大人数を相手に練習する時にいつその練習を打ち切るかを判断するためにも活用できる。全員で行うものを full choral、半数で行うものを half choral と呼び、これを組み合わせ、次の手順で進める。

1. Full choral, single repetition
2. Full choral, double repetition
3. Half choral, single repetition
4. Half choral, double repetition

さらに、その half を教室の左右・前後と 4 ブロックに分けて行えば、全員だけでの練習より変化が生じ、対抗意識も自然に生まれ生徒達は張り切るものである。なお、この double repetition を指示する時には人差

し指と中指でVサインを作り、人差し指、中指の順に折りながら言うタイミングをコントロールするのであるが、手のひらの向きによっては相手に中指を立てるとんでもないジェスチャーに見て取れることには留意したい。

④個人を指名して言わせる。アトランダムに指名する方法と、列の先頭の生徒を指名した時は、後ろの生徒達が次々と同じ語句を言うことを約束事しておくこともある。とにかく、自分が指名されずとも、その語句を小さな声で自分も言うように習慣づけることが大切である。

⑤指名した生徒がうまく言えない場合は、すぐにもう一度モデルを聞かせ、single repetition を行う。それからどのように展開させるかは、当該生徒によるだろう。あまり徹底的に発音矯正を行うと生徒は過緊張でかえって言えなくなることが多い。少しでも良くなれば、"That's better." と誉めるようにしたい。

## Pattern Practice

次の3種類がある。

1. substitution (置換)
2. expansion (展開)
3. conversion (転換)

1. は、教師の出す cue で英文の特定の語句を置き換えて新しい英文を言わせる。
2. は、基本文に、cue に従って修飾語句を加えて新しい英文を言わせる。
3. は、基本文から Question などの cue により文の種類、時制などを変えて英文を言わせる。

手順と留意点をまとめる。

①基本文を全員が大きな声で揃って言えるまで mim-mem の指導技術を活用しながら練習する。これができないうちに、次の段階へ進むべきではない。

②原則として英語で cue を出す。直後、個人を指名し、その答えが正しければクラス全員が同じ英文を声を揃え繰り返して言う約束を確立しておく。その英文に対して習熟不足気味ならば、Cue を出した後、クラス全員が言い、その後で個人を指名する。両者での個人指名の意味合いが異なることに注意して欲しい。

Cue を出すのは原則として英語であるがそれではうまく英文が作れない場合がある。例えばそれが主語になるのか目的語になるのか両方の可能性がある場合である。そのような場合は「Bob は」などのようにすれば、迷うことはない。Cue には未習の語句は用いない。また、新たに作らせた英文の意味がおかしくなったり、言わせるスピードを重要視するあまり、リズム、イントネーションなどが崩れてしまうことがないように、時々全員で正しく言う練習を織り交ぜながら行うのが良い。

Pattern practice が英文の意味内容を軽視・無視しているという例証として上記 3.conversion が取り上げられる場合が少なくない。

T: Tom likes baseball.

S: Tom likes baseball.

T: Question.

S: Does Tom like baseball?

T: Tom likes baseball.

S: Tom likes baseball.

T : Negative.

S : Tom doesn't like baseball.

最初の例では、Tom likes baseball. と聞いたはずなのに Does Tom like baseball? と言うのはいったい誰なのか。次の例でも、Tom likes baseball. と言い終えたらすぐ、Tom doesn't like baseball. と言う、いったい最初の Tom と 2 番目の Tom は別人なのか、生徒は素朴な疑問を持つだろう。その疑問を圧殺して「黙って私について来なさい」が多くの生徒には通用しなくなっている昨今である。「この練習の目的は、正確な発話練習にあり…」などと説明して説得できるものでもない。次のような展開が一解決法であろう。

T : Tom likes baseball.

S : Tom likes baseball.

T : How about tennis?

S : Does Tom like tennis?

T : Tom likes baseball

S : Tom likes baseball.

T : But Bob...

S : But Bob doesn't like baseball.

上記の練習が円滑に行われるには、cue がやや複雑になる。それゆえにこうした約束事が確立するまでには中学 1 年 2 学期半頃までかかると予測する。しかし、一旦確立すれば、それ以降、非常に便利に口頭練習を運営できる。

### Conversation (Controlled Conversation)

教科書の対話文の内容についての英問英答を展開する時に、個々の生徒に質問文を言わせそれを別の生徒に答えさせる流れを教師が作り練習する方法である。質問文を教師が言い、生徒が答えるだけよりもはるかによい練習になる。

①教師が、目標となる質問文を言う。

②生徒全員がその質問文を繰り返して言う。

③ 1 人の生徒を指名し、その質問文を言わせる。

④すぐ別の生徒を指名し、その答の文を言わせる。

⑤その答が正しければ生徒全員が声を揃えて答の文を繰り返して言う約束を確立しておく。

### (Guided Interactive Conversation)

生徒の身近な話題について相互に英語で尋ね答え対話を継続させる練習を教師が主導しながら行うものである。この名称は筆者がつけたものである。このような活動をクラス全体で行なった後、ペア・グループで対話練習を行うようにするのが良い。さらにその時、机間巡視を行い指導助言し、何組かに後で自分たちの対話を再現し発表させるのもよい。

T : は教師、SA、SB、は個々の生徒とする。

T : Does SA like baseball, SB?

SB : No, he doesn't.

T : Oh, really?



SB : He is in basketball club?

T : Does SC like tempura, SD?

SD : I don't know.

T : Then ask her.

SD : Do you like tempura, SC?

SC : Yes, I do.

SD : SC likes tempura.

本稿で取り上げた指導技術は、伝統的な基礎・基本的なものに限っている。これだけを駆使してもコミュニケーション的な授業にはならないのは自明である。一方、コミュニケーション的な授業を目指してもどうもうまいかないと嘆いている方は、これらの指導技術を加味した授業展開を4月より試みられることをぜひお奨めしたい。

---

#### 【参考図書】

伊藤健三, 他『新しい英語学習指導』(リーベル出版)  
名和雄次郎, 関典明「中学英語の指導技術」(ELEC)

雑誌『英語教育』(大修館書店) 2003年4月号 pp.18-20 より

## サッカーゲーム

### 全体の「流れ」

1. 生徒の立場で「活動」を体験
2. 3人1組でグループを作る
3. 「課題」をグループ内で話し合う
4. クラス全体に「活動」の振り返りポイントを提示
5. まとめ

### Mission: 活動「サッカー・ゲーム」の後で...

活動のルールを一つ一つ思い出し、ルール等に込められている「意図」を解明し、活動全体の『目的』を把握せよ。

(例)「～のルール」⇒「なぜそのルールがある？」

### ‘Soccer Game’の振り返り

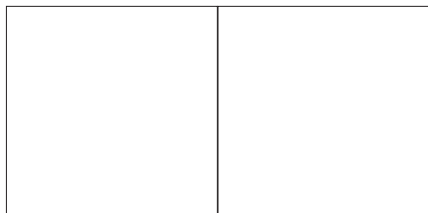
- Q1. 生徒に質問をさせるのにカテゴリーを設ける理由は？
- Q2. 「5秒ルール」の狙いは？
- Q3. 質問したら着席、全員が質問を終えるまで同じ生徒が質問できないルールの狙いは？
- Q4. 同じ質問禁止の狙いは？
- Q5. 質問の中に「特別優遇措置」がある狙いは？
- Q6. 質問に答える教師の発言のあり方の狙いは？
- Q7. キッチンタイマーをボールにしている狙いは？
- Q8. ゲームの「真の勝者」は誰？何故？

## 【資料 2-2】

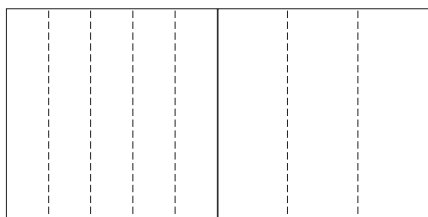
### 生徒がどんどん英語で質問をする活動

#### サッカーゲームのルール

- ① 黒板にコートを描く。



- ② コートに区切りの線（色チョークで）を描く。この場合、教員側ゴールのフィールドの線を多くしておく。下図では左側ゴールに教員キーパーとして立っている絵を描く。右側には生徒達がゴールキーパーをしている絵を描く。



- ③ ボールの代わりにタイマーを用いセンターラインに置く。

生徒は、カテゴリー（Food, Animal, Sports, Subject（生徒同士の場合））の単語を用いて教師に like（または Sports を選んだ場合は play）を用いて質問をする。

（例）Do you like cats?

答えが、Yes, I do. となるとボール（タイマー）が左側（教師ゴール側）に一つ動く。

答えが No, I don't. の時は、右側（生徒ゴール）に一つ動く。

また、生徒が 沈黙して 5 秒間（指を折り時間の経過を示す）質問がない場合は、No. の時と同様に右側に動く。

「教師 VS クラスの生徒達」の場合は、生徒全員を起立させ、質問をした生徒は着席させ、起立した生徒がゼロになるまで質問はできないというルールにする。

また「同じ質問」をすることはできないというルールにする。

1分間英語で自分のことを話してみ るプロジェクト	実施日	発表者	評価者
発表に関わること		内容に関わること	
	声・英語	目線・態度	発表内容
A (5)	相手に分かりやすい正確な英語で、ポーズ、抑揚も適切にあり、はっきり大きな声で流暢にスピーチができた。	聞き手と目線を合わせながら落ち着いた態度で原稿は全く見ずに堂々とスピーチができた。	情報量が豊富で、内容が整理されてわかりやすく聞き手の興味を引く工夫もあった。
B (3)	ポーズ、抑揚に気を付けつつ流暢に話そうとしているが、ところどころ声が小さく発音などに正確さが欠けることが若干あった。	時々(回数:2回以内)、自信がない箇所では原稿に目をやりながらスピーチを最後まで続けることができた。	情報量はそれなりにあったが、無駄な繰り返しなどもあり、聞き手が興味を持てずに終わってしまった。
C (1)	声小さく聞き取りにくく、英語の発音も正しくないことがかなりあり、ポーズ、抑揚も不適切で、途中でスピーチがほぼ止まってしまった。	原稿から目を離すことがほとんどできず、聞き手を見ることがほとんどなかった。全体的に落ち着きに欠ける態度だった。	情報量が乏しく、内容もわかりにくくまとまりに欠け、聞き手が理解するのは困難だった。
総計	所見		
	/20点		

## 【資料4】

英語科教育法A 課題：音読練習 氏名 \_\_\_\_\_

\* 次回の授業で使用するプリント。

下記の英文を音読する時にどこで区切るか / を入れて忘れず持参すること。

授業では、①音読の方法をDVDで学ぶ。(生徒の立場)

②音読の指導技術全体(手順など含む)を学ぶ。(教員の立場)

Textbook p.24

Ghana produces a lot of cacao beans. They're made into chocolate. Many people work on cacao farms in Ghana. But the beans are sold at a low price. They work hard, but they can't earn enough money to live.

Many children in Ghana work on farms to help their families. Some of them have never been to school.

Fair trade can solve these problems. If you buy fair trade chocolate, more money goes to the farm workers. Your choice will help them.

## 【資料5】

英語科教育法A 音読 DVD 視聴 Worksheet 氏名 \_\_\_\_\_

### 1. 音読指導について～音読練習の目的と方法（概論）～

Q1. リピートの際のポーズの取り方が異なるのはなぜか？

Q2. 表現のさせ方が異なるのはなぜか？

Q3. 使用するハンドアウトの形式を変えなくてはいけないのはなぜか？

Q4. クラスで一斉練習、発表形式を取り入れる、それぞれねらいは何か？

### 2. 指導技術ごとにどのような英語の指示を行い、音読を行うのか手順などをメモしなさい。

1) Repeating (1) テキストを見て、チャンク単位

2) Repeating (2) テキストを見て、文単位

3) Repeating (3) リピートの際に顔を上げて、チャンク単位

4) Repeating (4) リピートの際に顔を上げて、文単位

5) Repeating (5) テキストを見ないで、チャンク単位

6) Back-up Reading 文末チャンクから積み上げ

7) Individual Reading (1) 回数指定、一斉読み

8) Buzz reading 時間指定、一斉練習

9) Timed Reading (1) 指定時間ぴったりで読み終わる

10) Timed Reading (2) 指定時間内に読み終わる

11) Individual Reading (2) 個人発表

12) 音読リレー (1) 時間指定、全員の個人発表



13) 音読リレー (2) 文単位、全員の個人発表

14) 音読リレー (3) 文単位+列ごとにクラス一斉練習

15) Pair Reading (1) ペアがテキストでチェック

16) Pair Reading (2) ペアがテキストを閉じてチェック

\* 資料は実際のプリントの行間を詰めたもの。

## 【資料6】

模擬授業実施要項【中学校編】 \* 実習先が高校でもこの教材を用いて授業を行う。

教材：New Horizon Book2 (東京書籍) 平成28年度版 Unit 3

\* 来年度6月実習の場合の進度 (教壇実習を想定)

分担及び担当者 \* 音読DVD1回目、2回目視聴解説時「欠」の者は②③ は担当しないこと！

SO ① Unit 全体題材導入+新出文法+単熟語

②本文 Reading (音読練習含む)+若干説明

③本文 Reading (仕上げ：個人読み)+練習問題

D ④前時の復習+新出文法+単熟語

⑤本文 Reading (音読練習含む)+若干説明

⑥本文 Reading (仕上げ：個人読み)+練習問題

R&T1 ⑦前時の復習+新出文法+単熟語

⑧本文 Reading (音読練習含む)+若干説明

⑨本文 Reading (仕上げ：個人読み)+練習問題

R&T2 ⑩前時の復習+新出文法+単熟語

⑪本文 Reading (音読練習含む)+若干説明

⑫本文 Reading (仕上げ：個人読み)+練習問題

1. 制限時間各分担箇所：15分以内 (自分の指導案が時間内で終了するかのリハーサル必須)

2. 教材研究としてデジタル教科書の音声をよく聞き、研究すること。

3. 同じパートで「フラッシュカード」「ピクチャーカード」を共同制作共有する。文具費用は各自負担

4. デジタル教科書を利用し模範朗読として聞かせることは可。それ以降、必ず肉声で授業を行うこと。

5. 指導手順を記した略案を授業前日にメールにて送信すること。A4で1枚とする。

模擬授業当日にこちらで印刷・授業後の合評時に配付する。

6. 1回の授業での時間配分（予定）：

- (1) 模擬授業：15分×3名
- (2) 合評：一人当たり約13分
- (3) 質問票記入 約5分

## 【資料 7】

英語科教育実習 A \*フィードバック・シート ( 年 月 日 )

★ \_\_\_\_\_ から \_\_\_\_\_ 君・さん へ

\*今日の模擬授業で良いと思ったこと

.....

.....

.....

.....

.....

\*今後改善・注意したら良いと思うこと

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....